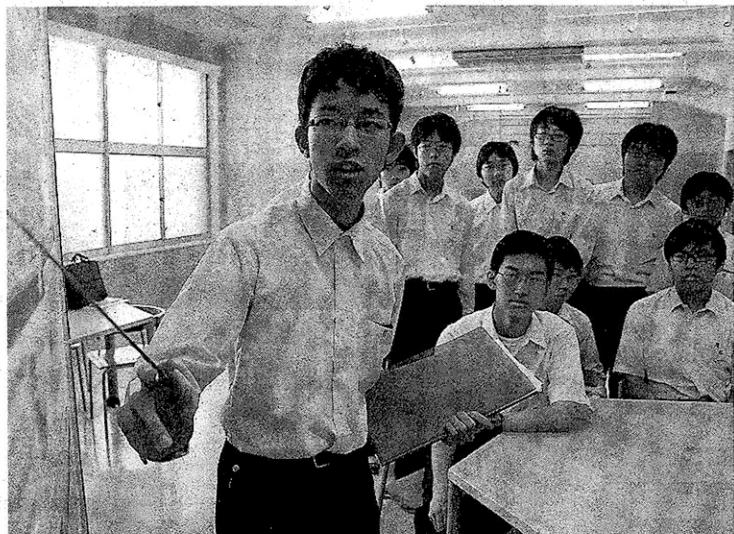


身近な地学探し全国一



地下水と降雨の関係を地学部員に説明する清水彬光さん（左）＝26日、新宿区大久保の海城中高

日本地球惑星科学連合2015年大会の高校生セッションで、海城中学高校（新宿区大久保）地学部の発表が全国1位になった。テーマは地学部創部以来、7年間続いているわき水の研究で「先輩から受け継いだ力の結集」と部員たちは喜んでいる。

海城中高 地球惑星科学大会で発表

この大会は、地球惑星科学の研究者ら約7千人が集まり千葉市で28日まで開かれ、初日の24日に高校生セッションがあった。

降雨調べ水質分析

全国43校77件から1位の最優秀賞に選ばれたのは、「新宿区立おとめ山公園周辺の地下水の変動把握および涵養域の推定」。

発表した高2の清水彬光さん（16）は「地下水の見えない所を間接的に調べてみた」と研究を始めた。

わき水は雨の後に増え、近くの井戸の水位も上がる

ことを確認し、どれくらいの広さに降った雨が集まるかを降雨データや水質分析

から割り出した。「半径3キロ以内の約10平方キロの可能

性」と予想以上の広さだっ

公园は学校から歩いて20分、約40人の部員が交代でほぼ毎日、わき水の流出量を測り続けた。

優秀賞・奨励賞も

優秀賞には「エアロゾルが夜空の明るさに及ぼす影響」が選ばれた。高3の西尾真輝さん（17）は「大気中に浮遊する微粒子の量と高

度が夜空の明るさに影響する」とわかつておもしろかった」と話す。「裸眼及びSQMによる夜空の明るさ観測の比較」も奨励賞に入った。

この研究は南極観測隊員だった地学部顧問・上村剛史教諭（35）の薦めで13年の「中高生南極北極科学contresテスト」に応募し、最優秀賞を受賞した。

自然が乏しい環境だが、「都会を逆手にとれ」と上村教諭。「自然と社会のつながりが探せる」と生徒の

ひらめきに期待している。

（中山由美）